

SKYLIGHT 〈今月の焦点〉	宇宙X線背景放射と隠された活動銀河中心核 - 「あすか」衛星によるサーベイから得られた結果を 中心として -	秋山正幸 119
EUREKA 〈研究紹介〉	軟X線観測で見た活動銀河中心核 (AGN) の進化 - ROSAT衛星によるサーベイの成果とその後の発展 -	宮地崇光 131
	多層膜スーパーミラー硬X線望遠鏡の開発と 日米共同気球実験 (InFOC μ S)	岡島 崇 InFOC μ Sチーム 141
天球儀 〈読物〉	天体とスペースプラズマの シミュレーションサマースクール	福田尚也 松元亮治 149
シリーズ	《海外研究室事情 (39)》 Institute for Astronomy, University of Edinburgh, Royal Observatory エジンバラ大学・王立天文台 天文学研究所	岸本 真 154
雑報	日本天文学会早川幸男基金による渡航報告書	氏原秀樹 156
会員候補者選挙 について	日本学術会議会員候補者選挙にあたって	池内 了 158
月報だより		160

表紙説明

名古屋大学とNASA Goddard Space Flight Center は共同で、多層膜スーパーミラーを用い、40 keVまで感度のあ
る硬X線望遠鏡の開発に、世界で初めて成功した。また、これを用いた気球プロジェクト (InFOC μ S) を共同で
行なっている。硬X線望遠鏡は口径 40 cmで、その内部に 2040 枚のスーパーミラーがつめこまれている。望遠鏡
の回りにはフライト用のヒーターがついている。放球の写真の真ん中に見えるのが気球とパラシュート、その下
に小さく見えるのがゴンドラ (幅 9 m) で、その全長は200 mにもおよぶ。気球は上空で膨らみ、直径130 mの球
になる。また、すぐ左下に見えるのが放球に使われたクレーン。2001年7月の最初のフライトで、はくちょう
X-1の硬X線イメージ (20-40 keV) の取得に初めて成功した。

(EUREKA 『多層膜スーパーミラー硬X線望遠鏡の開発と

日米共同気球実験 (InFOC μ S)』参照)